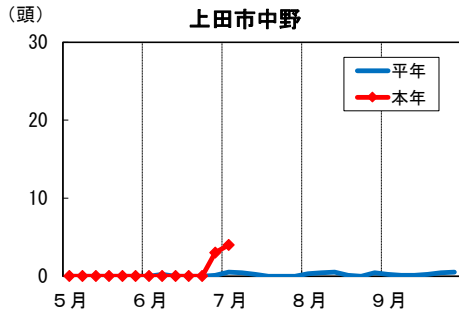
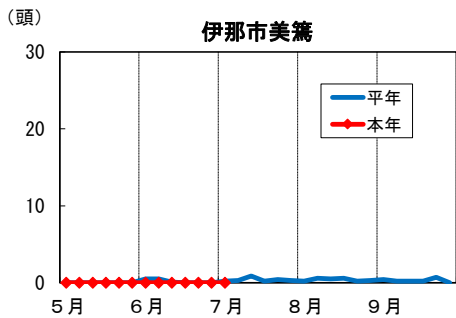


予察灯によるアカスジカスミカメの誘殺消長【令和6年(2024年)】

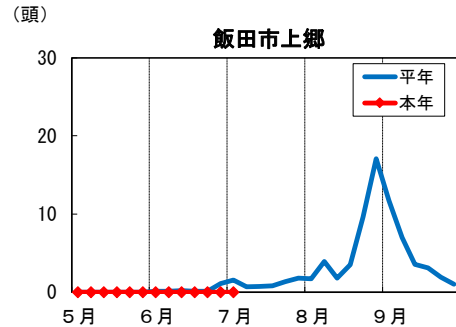


※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均

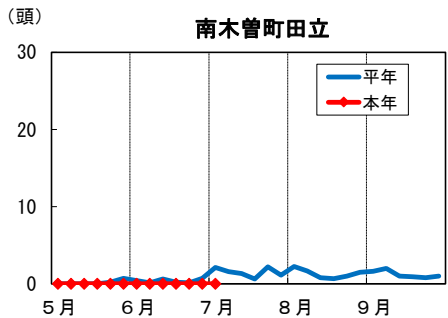
- ・上田市は、6月第6半旬に3頭が初誘殺され、以降誘殺数は平年に比べて多いです。
- ・須坂市八重森は、6月第6半旬に5頭が初誘殺され、以降誘殺数は平年に比べて多いです。
- ・その他の地点では、今のところ誘殺はありませんでした。



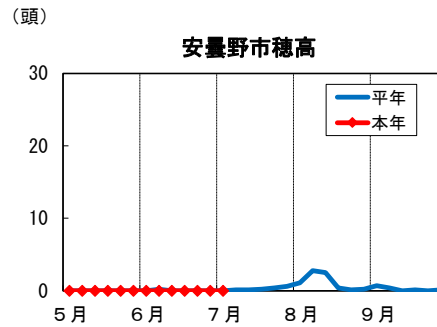
※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均



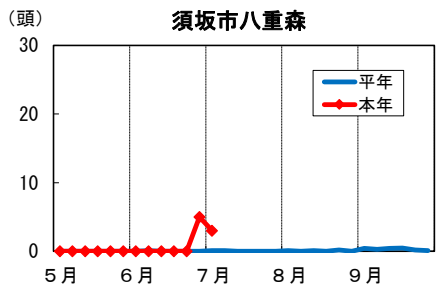
※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均



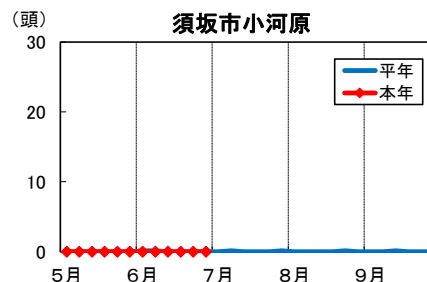
※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均



※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均



※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均



※平年:平成26年～令和5年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

斑点米を発生させる主要害虫のアカスジカスミカメは、卵で越冬し、畦畔や水田周辺のイネ科牧草・雑草で増殖します。水田への侵入のピークは出穂期6～15日あたりで、稲への加害時期は開花期と登熟期に集中します。出穂期の早い早生品種で被害が多くなる傾向にあります。上のグラフは予察灯(ライトトラップ)で捕獲された成虫数です。

2 防除時期・対策等

出穂期10日後に防除を実施し、常発地では7日～10日後に追加散布を行います。粒剤は効果の発現までに時間を要するため、3日程度早く処理します。水田畦畔の草刈りは出穂2週間前までに実施し、出穂直前はカメムシを水田内に追い込む恐れがあるため行いません。